

ヤマトタケルノミコト

今改めて知る

日本武尊と



『日本書紀』は、天武天皇の命により編さんが始まり、養
伝説上の英雄「日本武尊」は、『日本書紀』と『古事記』に登場する人物で、
そしてその妻の弟橘媛の生誕地
日本書紀が完成してから1300年の節目にあたり、日本武尊と

『日本書紀』の誕生

日本書紀は、養老4(720)年に完成し、今年、令和2(2020)年に、編さんから1300年を迎えました。天武天皇10(681)年、天武天皇の命により編さんが始まり、およそ40年の歳月をかけて完成しました。これが、日本で最初の国の歴史書・日本書紀です。

『日本書紀』が語る 日本武尊と弟橘媛の物語

(1) 日本武尊の誕生

はりまのいなびのおいらつめ
日本武尊は、景行天皇と播磨稲日大郎姫
おおうすのみこ
の間に双子として生まれ、兄は大碓皇子、弟
おおうすのみこと
は小碓尊と名付けられました。

この双子の弟・小碓尊が、のちに日本武尊と名乗るようになります。小碓尊は、成長すると見た目も良く、立派で、一丈(約3m)もの長身で大変な力持ちとなりました。

著色絵入祭礼御神燈提灯
この提灯は「古事記」に基づいて描かれたものとみられる。



(2) 西の国との戦い

くまそ
小碓尊は、熊襲との戦いへ向かいます。この戦いでは女性の姿となって相手を油断させる作戦を取り、知略をめぐらせる日本武尊が描かれています。

この作戦は、相手の様子をうかがったところ、新築祝いをしていたことがきっかけでした。小碓尊は、髪をとして女性の姿となると、懐に剣をしのばせ、宴へともぐりこんだのです。美しい女性にひかれた熊襲は、隣に座らせ酒をつがせませす。小碓尊は作戦どおり、相手を酔わせませす。夜も深くなり、ついに小碓尊は剣を抜き、相手を討ち取ったのです。

また、この戦いで相手の熊襲が自分よりも強かった小碓尊に対し、自分の名前である「タケル」を差し上げると言ったことから、「日本武尊」という名前が付けました。



『日本書紀』と『古事記』

日本武尊の物語は、日本書紀とともに古事記にも記されていますが、さまざまな違いがあります。例えば、名前や地名に使われる漢字が異なります。名前は、日本書紀では「日本武尊」、古事記では「倭建命」、亡くなった場所は、日本書紀では「能褒野」、古事記では「能煩野」です。日本武尊のイメージも、日本書紀では父である景行天皇に信頼される力強い武人ですが、古事記では父に疎まれた悲劇の英雄として描かれています。



日本書紀 巻第七
「能褒野」と「日本武尊」の文字が確認できる

校正古事記 中巻
「倭建命」の文字が確認できる

オトタチバナヒメ 弟橘媛のものがたり

老4(720)年に完成した、日本で最初の国の歴史書です。
本市には、日本武尊が亡くなった能褒野とその墓とされる能褒野御墓、
とされる忍山神社があります。
弟橘媛の物語とその最期にまつわる白鳥伝説をご紹介します。

問合先 歴史博物館 (☎83-3000)

(3) 東の国との戦い

次に、日本武尊は蝦夷との戦いへ向かいます。途中、叔母である倭姫命やまとひめのみことにあいさつをするために伊勢神宮へ立ち寄り、剣を授けられました。この剣が、のちに「草薙剣」と呼ばれるものです。

さらに進み、相模国(神奈川県)から上総国(千葉県)へ行くために、今の浦賀水道を船で渡ろうとしたとき、日本武尊は、「なんて小さな海なんだ。飛び上がって渡れそうだ!」と軽口を言ってしまいました。すると、海は荒れ、乗っていた船は前へと進めなくなりました。

同行していた妻の弟橘媛は、「これは海神の怒りです。私の願いは、あなた様の命の代わりに海へ入らせてもらうことです」と言い、自分の命で日本武尊が助かるのならと海へと飛び込みました。すると、波は穏やかになり、海を渡ることができました。弟橘媛は、命をかけて日本武尊を救ったのです。

戦いに向かった先の蝦夷は、日本武尊の神々しさに、戦わずして従うことにしました。帰国の途についた日本武尊が、碓氷峠までやって来たときに弟橘媛をしのび、「ああ、わが妻よ」と悲しみました。

(4) 死への道

蝦夷を従えた日本武尊は、ふるさとの倭国(奈良県)へと歩みを進めます。その途中、伊吹山の荒ぶる神を倒しに山へ向かいました。

日本武尊は、山中で出会った大蛇が姿を変えた神であったことを見抜けず、また大切な草薙剣も持たずに山へ向かったため、山の神の怒りに触れ、病気になってしまいました。

それでもなんとかふるさとへ帰ろうとしたものの、「能褒野」で力尽きて亡くなってしまいました。日本武尊の死を聞いた父・景行天皇は、能褒野に墓を造らせました。墓へ亡きがらを納めると、日本武尊は白鳥となって飛び立っていきました。



亀山市と日本武尊

明治12(1879)年、明治政府は、現在の田村町にある能褒野王塚古墳を日本武尊の墓と決定し、そばに、日本武尊を祀る能褒野神社を創建します。また、野村四丁目には、日本武尊の妃である弟橘媛の生誕地とされる忍山神社があります。

日本武尊が死した場所は、愛する妻が生まれた場所でもありました。亀山市は、日本武尊にとって、まさに愛と死が交わる地であったのではないのでしょうか。



妻の愛に支えられた日本武尊の墓とされる能褒野御墓(田村町)

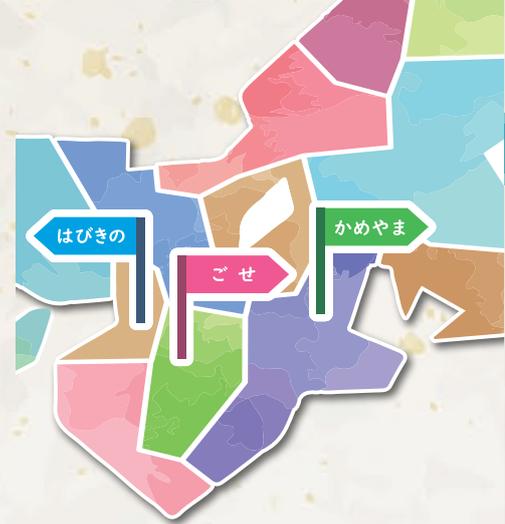


日本武尊に無償の愛をささげた妻弟橘媛の生誕地とされる忍山神社(野村四丁目)

日本武尊・白鳥伝説三市交流

日本武尊の最期にまつわる伝説は、『白鳥伝説』^{しらとり}といわれています。
大和朝廷全国統一のため、父である景行天皇の命令を受けて東西へ遠征した日本武尊は、東の蝦夷との戦いを終えて故郷である倭国への帰途、能褒野で病により没しました。日本武尊の魂は、その姿を白鳥に変え、ふるさとへ向かって飛び立ち、琴弾原^{ことひきのほら}（奈良県御所市）に降り立ったのち再び飛び立ち、古市（大阪府羽曳野市）に舞い降り、ついに天へ飛び去ったと記されています。これらの地にはそれぞれ墓が造られ、「白鳥三陵」と言われています。

本市は、この伝説にゆかりのある大阪府羽曳野市、奈良県御所市と平成10年11月30日に都市間交流の合意を取り交わし、平成11年から市民交流を行っています。



能褒野王塚古墳



白鳥陵（御所市）



白鳥陵古墳（羽曳野市）

能褒野王塚古墳は前方後円墳だった!!

平成25年、宮内庁書陵部が実施した調査によると、大きさは全長90m、後円部径54m、前方部長40m、前方部幅40m、後円部高8.5m、前方部高5.5mであることが分かりました。
北勢地域最大の前方後円墳です。



能褒野王塚古墳模型

◎これまでの交流事業の様子

2年ごとに各市が順に開催地となり、都市間交流事業を行っています。各市の市民の皆さんが参加し、史跡めぐりをはじめ、スポーツや音楽演奏、ミュージカルなどの催しや、地域課題に関する意見交換などの友好交流を図っています。

■第13回（平成26年 亀山市）

JR井田川駅前のヤマトタケルの石像披露をはじめ、のぼりの森公園までの群行ウォーキング、日本武尊御墓見学や市民ミュージカル「TAKERU」の鑑賞などを行いました。



■第14回（平成28年 御所市）

白鳥御陵や、霜月祭で町家や山伏の練り歩きの見学などを行いました。



■第15回（平成30年 羽曳野市）

白鳥陵や峯ヶ塚古墳、ワインPRイベントの見学などを行いました。



日本書紀編さん1300年関連事業

オリジナルジャンボ絵本「ヤマトタケル」の読み聞かせ (9月20日・11月3日 / 歴史博物館、10月24日 / 市立図書館)

歴史博物館「第35回企画展」に合わせて、市民活動団体「亀山絵本と童話の会」による読み聞かせが行われました。ジャンボ絵本は、歴史博物館と「亀山絵本と童話の会」が約8か月かけて作り、縦90cm、横120cmで12場面あります。



野村證券(株)津支店ショーウィンドウを活用した企画展示 (7月1日～8月31日)

地域貢献を目的に店頭ショーウィンドウを団体や自治体へ貸し出している野村證券(株)津支店の協力を得て、本市の知名度向上を目指した企画展示を行いました。



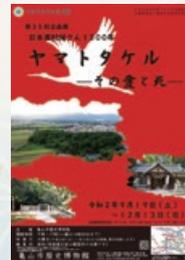
市民参加型 亀山ミュージカル(11月15日)

市にゆかりのある神話などを題材に、亀山市文化大使の小嶋希恵さん脚本の「～日本書紀 編纂1300年～亀山・今・昔・物語」と市民脚本の「鈴鹿御前～ふたつの心～」が二部構成で上演されました。



歴史博物館 第35回企画展 日本書紀編さん1300年 「ヤマトタケルーその愛と死ー」

日本武尊終焉の地である能褒野とその墓とされる能褒野王塚古墳、そして日本武尊の妻である弟橘媛のストーリーを紹介しています。二人に関連するものがいくつも残されていますので、今に残るつながりを、ぜひご覧ください。



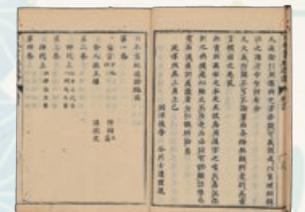
企画展 第2コーナーの様子



川崎町柴崎地区の秋祭りで掲げられた祭礼幟



鱧付朝顔形円筒埴輪



日本書紀通証

12月13日まで開催中(観覧無料) 【開館時間】午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで) 【休館日】毎週火曜日